韓国留学体験記

全北大学（夏季短期）

経済学研究科修士課程１年　藤村　哲史

留学先
全北大学
夏季短期・Feeling Korea Program
(韓国・全羅北道・全州)

期間
2011 年 8 月 6 日～2011 年 8 月 21 日

動機
韓国語の学習と、韓国の生活、文化を体験したかったから。

お金
・費用　≫往復航空券4万3千円、保険1万円
・レート≫0.07ウォン／円

≪一週間のスケジュール≫

	月	火	水	木	金	土	日
AM	韓国語授業	韓国語授業	韓国語授業	韓国語授業	韓国語授業	韓国語授業	自由行動
PM	文化体験	文化体験	文化体験	文化体験	文化体験	自由行動	自由行動

≪留学前後のスケジュール≫

	留学前	留学中	留学後
スケジュール	6月末　応募 7月　航空券購入 8月　出発		現在、模索中

■2011年度　夏季 Feeling Korea Program in 全北大学

■志望動機

私は学部時代、道外の大学に通っていました。あれは、学部4年の6月でした。テレビで日中韓コンテンツ産業の比較の例として各国のアイドルが紹介されていたのですが、その中でひときわ輝いていたのが韓国代表の「少女時代」でした。一瞬でハマりました。9月までは、教育実習や北大院試のため、封印していたのですが大学院の合格を期に溜まっていたものが爆発しました。インターネットを通してほぼ毎日彼女たちの曲などを聞いていました。そして、夏休みの集中講義の一つに3日間だけ「朝鮮語講座」が開講されると知ったので、受講しました。その講義がまた感動的でした。ハングルは非常に読みやすい文字だし、さらに、休み時間に少女時代のＰＶを流してくれたのです。3日間はあっという間でした。それからは韓国語独学の日々が続きました。

大学院に入学してから、あまりの中国人留学生の多さにこれからは中国語の時代だと思い、韓国語を止めてしまった時期もありましたが、韓国人の友人ができ、また、短期語学研修で Feeling Korea を紹介していただいたことから、自分の韓国語がどれくらい通じるのか試してみたくて、応募しました。

■参加校、期間

北海道大学5名、東北大学4名、早稲田大学4名、麻布大学2名、千葉大学4名、宮崎大学2名、鹿児島大学2名、計23名（男7名、女16名）。

プログラム期間は2011年8月7日から2011年8月20日。

■韓国語の授業と文化体験

主に、午前中に韓国語、午後は韓国文化体験が行われました。韓国語の授業では5〜6人のグループを最初の授業で作り、約2週間ともに助け合いながら学んでいく形式でした。また、個々の能力に関係なく一斉に行う授業形式だったため、ハングルが読める人にとっては非常に優しい授業で、読めない人にとっては少し苦しい授業でした。授業内容は、あいさつや自己紹介など、初心者向けの授業でした。休み時間は、最新の K-POP を先生にリ

クエストすると流してくれるので良い気分転換になりました。

文化体験では、韓国伝統舞踏、茶道体験、韓屋村観光、登山、コチュジャン作り、伝統婚礼体験、木版書画体験、韓国伝統音楽体験、韓紙工芸体験、伝統料理体験と、毎日盛りだくさんで飽きることがありませんでした。全部印象的なのですが、その中でも特に印象的だったのが、8 月 9 日に行われた韓国伝統舞踏体験でした。舞踏の中に求婚時に行われる舞踏があり、幼稚園児などがお遊戯で披露するときに踊るといったものがありました。実際踊ってみると恥ずかしかったです。お遊戯など小学校以来ですし、初対面の韓国人の女性と共に踊るのですから、緊張もしました。踊りはダサかったです。しかし、この踊りを通して、緊張感も羞恥心も崩壊し、これ以降みんなとの距離は 2 日目にして縮まったと思いました。

■自由行動

8 月 14 日の午後から 15 日かけ、自由行動がありました。私は仲良くなった東北大学の学生とソウルへ行きました。景福宮や南大門市場へ観光に行き、また、昼からマッコリを飲んだり、東北大学学生の韓国人の友達の家に泊めていただくなど充実した内容でした。行きはバスで 4 時間ぐらいでしたが、帰りは電車で同じく 4 時間ぐらいだったので不思議でした（バスよりもスピードは速かったです)。ちなみに、バスは狭く運転は荒いですが、スピードは本当に速く怖いぐらいでした。電車は広く快適でしたが、トイレの近くに座ると臭かったです。

■寮での生活

寮は 2 人 1 部屋で、男子寮と女子寮に別れていました。ベット、シーツ、枕、机、スタンド、棚、エアコンは付いていましたが、ハンガーやごみ箱、トイレ用品などはなかったので、初日に近所のロッテマートの中にあるダイソーで購入しました。寮の中には飲料用の水が置かれていたので喉が渇いた際は便利でした。洗濯機は有料で使用できました。そして、寮での食事は無料だったので、私は主に朝食だけ利用していました。また、寮に入る際にはカードをかざさなければなら

ず、個人の記録が分かるようになっていました。さらに、寮には門限があり、何回か違反すると罰則がつけられるそうなのですが、みんなで知恵を出し合って頑張りました。

■全州での食生活

本当に辛いです。朝から当たり前ですが本場のキムチを食べます。このキムチはどこへいっても出てきます。私は、１週間で胃腸が痛く嫌になり、辛いものはあまり食べることができませんでした。しかし、辛いけれども本当においしく、さらに、価格も安いため、つい食べ過ぎてしまう傾向がありました。サムギョプサル、サムゲタン（これは寮の昼食で出てきました）、トッポッキ、チヂミなど多種多様な料理を食べてきましたが、その中でも一番おいしかったのは水冷麺（ムルネンミョン）でした。さっぱりとしたつゆと、喉ごしのある麺が絶妙に絡んで、疲れた胃には最適でした。

また、町は騒々しいですが、大学周辺には個性的でおしゃれな café が多く、値段も手頃です。カップルで行くことをお勧めします。私は男同士で行きました。そして、全州はマッコリで有名なだけあって、飲みやすいマッコリがたくさんあり、マッコリを通して友との絆も深まりました。

■全州での自由行動

韓国は日本と比べ物価が安いため、ビリヤード（１時間 140 円ぐらい）やバッティングセンターなどへ行きました。カラオケは部屋料金のため大勢で行くとお得でしたし、店側がサービスでよく延長してくれました。カラオケは曲を本で調べてチャンネルで挿すタイプだったので少し時代を感じました。日本の曲もありました。

このプログラムに参加して一番衝撃的でうれしかったことは、少女時代のメンバーのテヨンのご両親に会えたことです。これはたまたま、メガネを日本に忘れてきた子がいて、作らなければならなかったので、ボランティアの一人がメガネ屋を紹介してくれたのです。最初「テヨンに会いに行かない？」

と言われたので「絶対コイツ嘘つきだわ」と思ったのですが、徐々に信憑性が高まるにつれ、「本気で韓国、しかも全北大学に来て良かったです。是非連れて行ってください」と、お願いしていました。天候は雨で良くなかったのですが、私の心は快晴でした。個人情報になるので詳細は割愛させていただきますが、とても優しいご両親で、写真撮影にも応じてくれ、しかもドリンクまで頂けました。本当に幸せな一時でした。そして、一緒に行ったボランティアともう一人の学生との仲も深まりました。

■苦手だったこと

韓国に来てどうしても慣れることができなかったのが、「トイレ」です。韓国では一部を除いて、トイレットペーパーは流してはいけないものであって、ゴミ箱に捨てるものなのだそうです。私は同じ大学の他のメンバーより先に 1 人で韓国に来て、一泊したのですが、そのことを知らなかったので、ホテルでトイレを詰まらせて嫌な思いをしました。そして、大学では、夏休みのためかトイレにトイレットペーパーがなかったので常に持ち歩いていました。また、高速道路のサービスエリアのトイレなどは悪臭と高温のため、トイレ内のごみ箱にハエがたかっていて、つらかったです。海外に行き、トイレに行くといつも日本のトイレの素晴らしさを感じます。

■私が感じた全州の特徴

私が感じた特徴の一つが、道に大量のビラが落ちていることでした。大学の周囲に繁華街があったのですが、そこの道は特に汚かったです。その原因の一つが「ビラまき兄さん」でした。ビラを配る時、日本では通行人に手渡しで配るビラを、全州では、大きな声で宣伝しながら、兄さんたちが空へ放りながら練り歩くので、彼らの通った後はビラだらけ、しかもほとんどの人がそのビラを拾わないため、ビラは踏みつぶされ道のごみになってしまっていたのです。

特徴のもう一つが「三本ラインのサンダル」の普及率が非常に高かったことです。このサンダルはスーパーでもコンビニでも販売しており、大学内で、見かけただけでも、10 人に 4 人は履いているぐらい人気の商品でした。そのサンダルを愛用しているボランティアの 1 人に聞くと「これは韓国全土で販売されていて、かなり安いからみんな買う」と教えてくれたのですが、これだけみんな一緒だったら、靴を脱いだら誰のものか分からなくなるだろうと思いました。

■Feeling Korea を振り返って

約 2 週間、本当にあっという間でした。最後の 1 週間は全力で生きすぎて体調を崩してしまったぐらい内容の濃い日々を過ごしました。今回得た一番の収穫は、人との出会いでした。韓国の学生だけでなく、先生や食堂のおばちゃん、そして、他大学の日本の学生と過ごした日々は、全部良い思い出しか残っていないぐらい素晴らしいものでした。そして、インチョン空港では、ボランティアの 1 人が最後まで付き合ってくれて、搭乗時間のぎりぎりまで一緒にいたため、私はインチョン空港の出発ロビーをカバンを抱え、全速力で走りました。シャトルの中で搭乗時間を過ぎてしまったのですが、結果的に搭乗することができて、本当によかったです。2 週間、ずっといてくれたボランティアの人たちには本当に感謝したいです。

■《留学アンケート》

① おすすめ（ガイドブックにないスポット、観光地、店、お気に入りの場所、食事 etc.）

Café、水冷麺

② マナーやタブー

サッカー「日韓戦」の時は日本が勝っても大きな声で喜ばない方がいい、

③ 持っていってよかったもの（重宝したモノ、喜ばれた日本のモノ、ウケた特技　etc.）

Facebook、韓国の演歌を歌えたらうける